

第 9 回委員会委員会会議結果概要（案）

	会議結果要旨
第 9 回 会 議	<p>○第 8 回委員会会議結果関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>○塩浜地区護岸改修計画に関する順応的管理計画関連 [主な意見及び対応]</p> <p><澤田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・波高については、強い南風の満潮時のときなども、今後検討する方が良い。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三番瀬の種々のシミュレーションで設定している卓越波高と、今回観測データとが異なる部分があるので、その原因を整理したほうが良い。 ・海底地形の施工後モニタリング調査結果でほとんど変化はなかったということだが、これが一時的なものか、長期的に続くのかを調査する必要がある。 ・生物調査で、魚類の調査も継続して実施した方が良い。 ・付着生物で、付着藻類の種の同定を調査項目がふやせるようだったら、していただきたい。 ・地形に関しては、周辺を干潮時に歩いてみてどの辺に砂がたまっているとか、どこまで広がっているとかを写真撮影等で調査していただきたい <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物調査については、何らかの形で定量的な評価ができるような方向で、これから考えていただきたい。 ・海底地形の変化の問題において、洗掘と漂砂は分けて考える必要があり、海の現象を理解しながらデータを分析する必要がある。

	会議結果要旨
第 9 回 会 議	<p><佐野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 底質と魚類の関係についての調査が必要である。 ・ モニタリングは最低1年間は様子を見る必要があり、次の工事は、その結果を待つべきである。 <p><川口委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事期間中は魚が寄り付かないので、魚類調査は無理ではないか。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (護岸工事による) 稚魚への影響は、他区域の魚類分布に大きく影響するが、事務局はどう考えているか。 <p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年モニタリング計画を決める中で、すべての種について追跡するのは困難なため、ハビタット区分というものを決め、それぞれのハビタットの変化で、影響を判断することとしている。 <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査、調査と意見が出ているが、きりがないので、今までの千葉県がやっている補足調査等を活用すべきである。 <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アナジャコ等、この生物生態系の持つ猫実河口域への浄化力というのをぜひとも計算していただきたい。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観について、利用や環境の両方で扱われているので統一願いたい。 ・ 景観について、積極的に地元の人意見を聞き、人々が望ましいと思うような護岸なのかどうかということ、モニタリング結果の検証の中にも含めていただきたい。

会議結果要旨	
第 9 回 会 議	<p><村木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観は主観的に判断しても、評価できない。 ・景観は、周辺域との景観の調和という観点で考えれば、目標を決めた上で、形だとか色だとかのデータをとっていくことが必要である。
	<p>○護岸の基本断面とバリエーション関連</p> <p>8月2日の「基本断面とバリエーションに関する勉強会」でバリエーションを提案した委員から下記の説明があった。</p>
	<p><倉坂委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリエーションを検討する際に、参考のため事例を紹介したということで、これが私の提案ということではない。 ・自然再生の場も、検討してもらいたいという話もしたので補足する。
	<p><清野委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防護で、築山の高さがある程度確保することによって、その防護効果というのでできるので、工夫すればそういう発想が使えると思う。 ・粗朶の活用は、アサリの稚魚等、漁業に対しても何らかの知見を与えることが期待されると思う。
	<p><川口委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも自分にとっての護岸の完成形を提案したので、漁港、プロムナード、展望デッキも抜けており、これもぜひ入れてもらいたい。 ・胸壁については、民有地に対する影響を少なくするため、何らかの低目の胸壁が必要と思い、それは開閉ができて部分的に出入りができるように希望している。 ・階段についてもバリエーションはもっとあると思う。

	会議結果要旨
第9回会議	<p><後藤委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然再生の場という議論は、バリエーションとは別問題だと思っている。 ・今の安全性を確保した上で、砂のつきやすい構造、ダイドプール、潮間帯を長くするなど生物にとっていい環境ができ上がってくるかという視点でつくっている。 ・今の石積みを工夫しながらアクセス部分を設けて親水性を向上したり、植物を再生していくにはどういう構造にしていったらいいかという議論もしたいと思う <p><竹川委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸の基礎工事を粗朶でやってもらいたい。 ・ラップストーン工法を検討していただきたい。 <p><佐野委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内陸部で広い範囲で湿地再生を実施するようなイメージである。 ・トビハゼの保全をめぐって、国交省が単年度予算の執行をとめて検討したことについて、話しをさせていただいた。 <p><富田委員提案説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海と親しめるということで、マウンドはできるだけ低くしたい。 ・そのために、沖合へ300mの砂浜なり干潟をつくることによって、マウンドにくる波が抑えられる。 <p>委員提案説明後、勉強会の座長を務めた遠藤委員から、消波機能、親水性、生物の生息環境等を考慮したバリエーションの提案がされた。</p> <p>[その後の意見]</p> <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本断面は、生物や環境にとってどうかということを、議論した上で考えていただきたい。

	会議結果要旨
第 8 回 会 議	<p><澤田委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫実川からの、雨水と終末下水処理場からの未処理水による淡水化についても検討した方がよい。 <p><及川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧護岸を切り下げて施工するのは波に対して危険なため、来年度からは、この点を改善していただきたい。 <p>次に、勉強会での各委員の提案を取り入れた基本断面とバリエーションの事務局案の説明を行い、これに対する意見交換を10月25日に勉強会を開催して行なうこととなった。</p> <p>○「その他」関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回第10回委員会を11月7日に開催することとした。

